

第一回 概念史とは何か

2016年度
東洋政治思想史

姜 東 局
2016/10/4

I . アジア政治思想の意義

1 . 東洋政治思想史という講座

1) 戦中期における東京帝国大学法学部の 東洋政治思想史講座の開設問題

①講座開設を申請した（1930年）大学の意図；日本（東洋）の政治思想史の研究－講義の対象は、まずは一国の思想史の並列（日本か中国）。

②講座開設を認めた（1939年）権力側の意図；侵略を支える学問的根拠の形成－日本が先導する東洋。1938年に文学部に日本思想史講座が開設。二つの講座は、密接な関連；一国の思想史の拡張として地域の思想史。帝国主義のイデオロギー。

I. アジア政治思想の意義

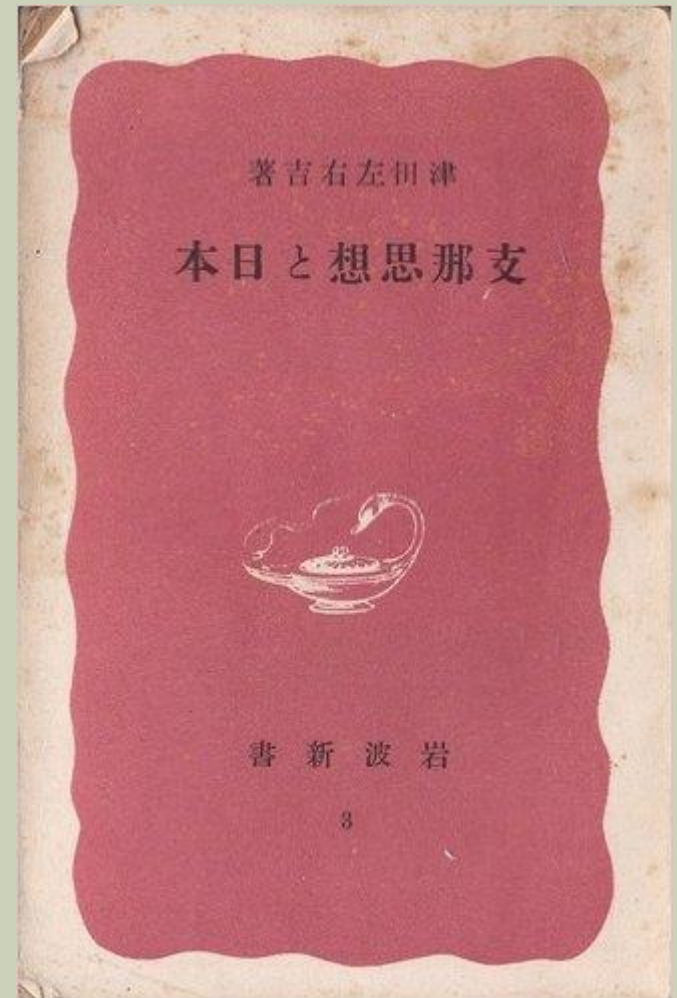
③意図の共通点と相違点

- i) 共通点：進んだ日本と遅れたアジア
- ii) 相違点：学問的な関心と
政治的な意図

→ 錯綜の中で、様々な問題が発生

例) 津田左右吉の学説への
右翼学生の反発。

『支那思想と日本』（1937年）



I . アジア政治思想の意義

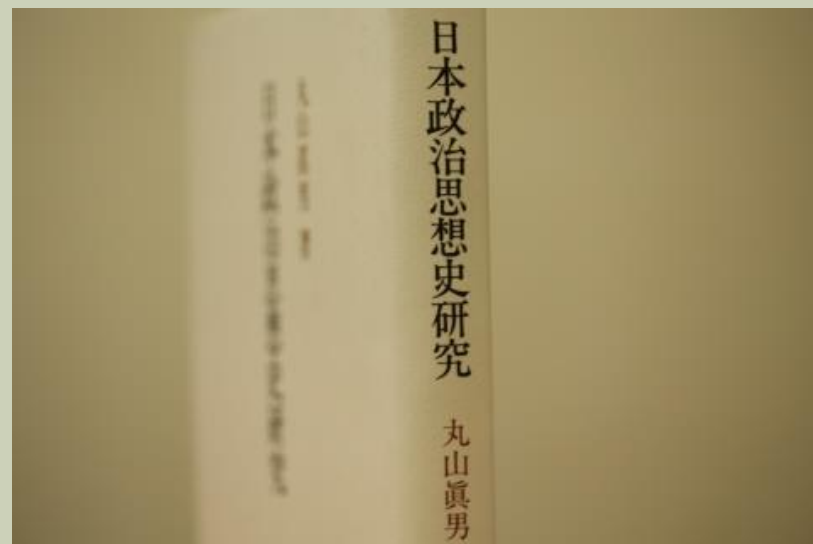
2) 戦後におけるアジア政治思想史

① 丸山真男：日本政治思想史への縮小

進んだ日本と遅れたアジアのイメージは持続＋戦争の失敗によるアジアの忘却と西洋のモデル化

→丸山真男の基本的な姿勢。その結果、近代主義の観点になった日本政治思想史の研究に専念

『日本政治思想史研究』（1952年）



I . アジア政治思想の意義

②守本順一郎：マルクス主義から見たアジア政治思想

マルクス主義からアジア政治思想へ
アプローチを試みる。

例) 古代→仏教
中世→儒教

『東洋政治思想史研究』（1967）



I . アジア政治思想の意義

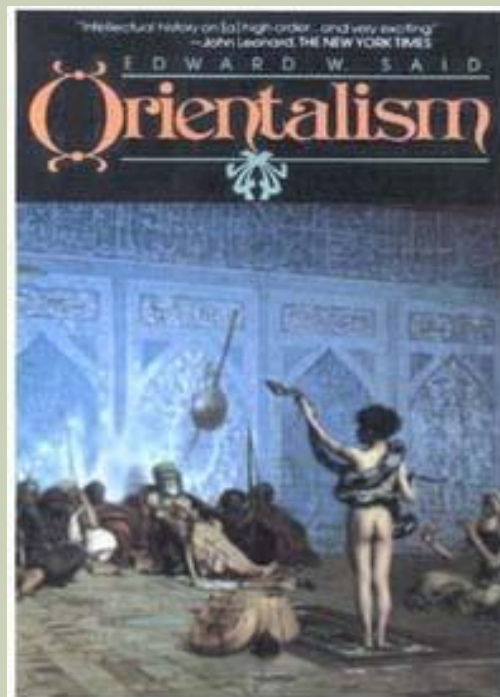
3) アジアの再発見へ : 1980年代末～

① 背景

現実の変化 : アジアの台頭 (例 : NIES) 、ソ連の崩壊

学問の変化 :

『オリエンタリズム (Orientalism) 』
(1978、邦訳1986) など、
西洋中心主義への懐疑や批判。



I. アジア政治思想の意義

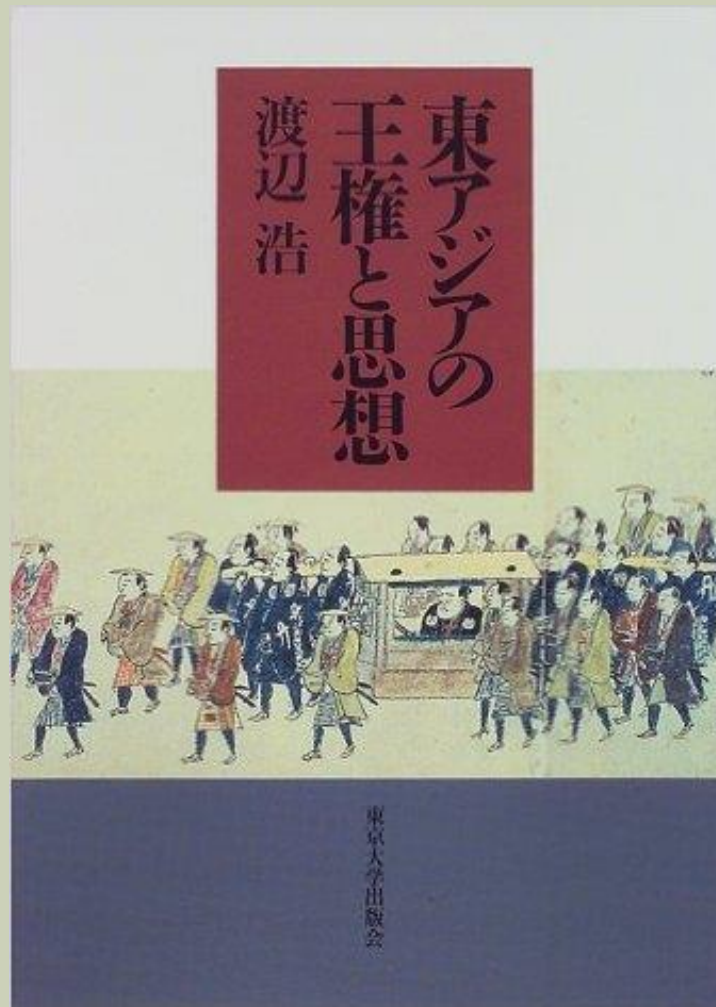
② アジア政治思想への内在的なアプローチ

日本をアジアの一部として位置づけ、
アジアを外部の目線ではなく、その
内在的な観点から理解しようとする
学問的な動きが活発に展開

溝口雄三（中国近代思想史）
浜下武志（東アジア近代史・経済史）
平石直昭（日本政治思想史）
宮嶋博史（朝鮮近世史）の共同作業
『アジアから考える』（1993年）

；東京大学大学院法学政治学研究科の
専門分野が日本政治思想史とアジア政治
思想史の並列へ。

『東アジアの王権と思想』（1997年）→

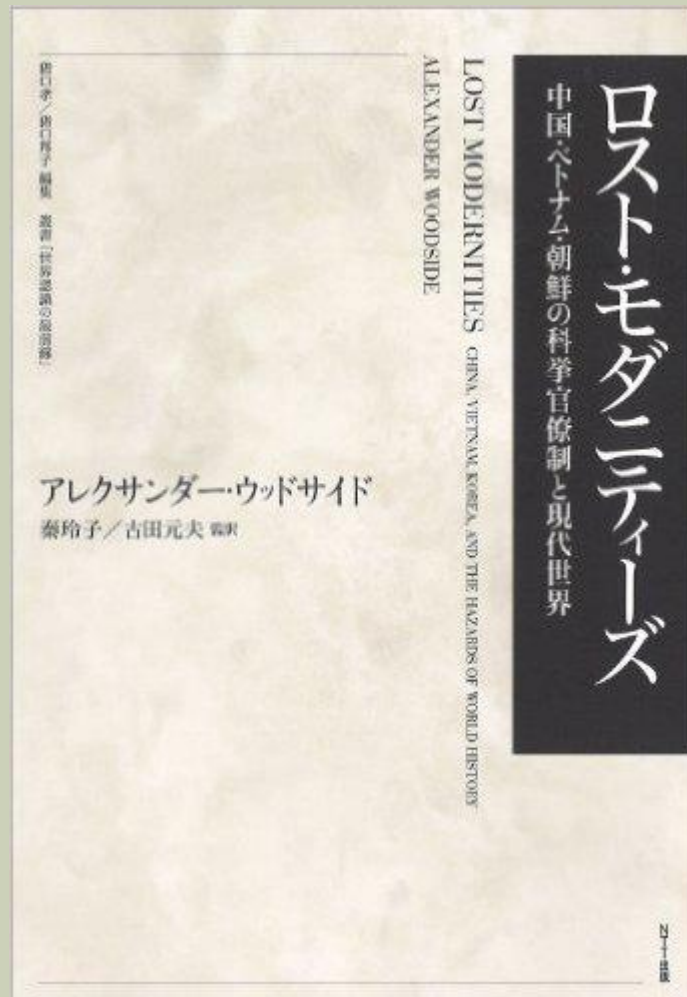


I. アジア政治思想の意義

③ 日本、アジア、そして世界

徳川時代の日本と中国、朝鮮との比較
→ 日本をアジアへ広げる。

中華と西洋の類似点の指摘
→ アジアを世界とつなげる。



Ⅱ. 概念史とは何か

1. 政治思想史の記述について

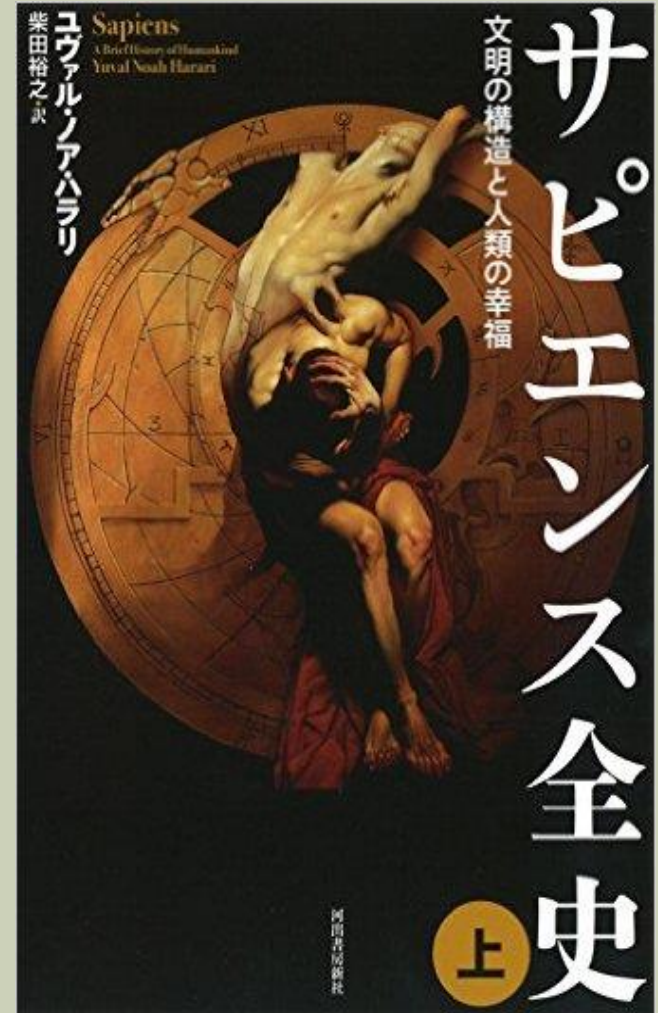
現在：

思想家個人の思想を時系列に提示する政治思想史が多数

コンテキスト：

教義史（history of doctrine）の克服。
教義史では、経典に真理は与えられていることを前提に、それを探ってきた歴史を整理。

経典に真理を残した存在（キリスト教の神や孔子など）によって、体系が完成されたので、歴史の中の個々人の努力の意義は限定的。



Ⅱ．概念史とは何か

2．個人の創造性へ限界

ソシュール（Saussure）の言語理論は、シニフィアン（記号表現、signifiant）と記意シニフィエ（記号内容、signifié）を区別。

シニフィアンとシニフィエの関係；

- ①その関係に必然性はない。
- ②にもかかわらず、それが了解される体系のなかでは、必然とされている。

；長い歴史を持つ人間集団は、シニフィアンとシニフィエの関係を作るが、一生を生きる個人は、シニフィアンとシニフィエの関係を受け入れる。

Ⅱ．概念史とは何か

3．概念史の意義と政治思想史のバランス

個人の創造性に中心とする政治思想史の偏狭

- ①性質：安定と変化の全体像が書けない。
- ②対象：優れている思想家へ議論が集中されることによって、多数の一般人の思想が書けない。

4．概念史の方法

コセレック（Reinhard Koselleck）の場合：「社会史」と「概念史」の融合。

→相対的な独立性を前提に、社会の歴史と概念の歴史を、両方が影響を与え合う領域を含めて考察。

Ⅲ. 東アジア概念史の基礎

1. 時代区分

1) 近世の東アジア

概念の共通性：漢字（言語）、儒学・朱子学（内容）
例）礼、仁、義、孝など。

概念連鎖の方向性：中国→朝鮮、
中国→日本、中国→朝鮮→日本

概念の相違性：仮名、ハングル（言語）、国学（内容）

Ⅲ. 東アジア概念史の基礎

2) 近代の東アジア

①中国を中心とする「近代」の還流：『海国図志』（魏源、1842）、総理各国事務衙門の設立（1861、第二次アヘン戦争の衝撃）・『万国公法（Henry Wheaton、Elements of international Law）』の翻訳（1864、宣教師のW. Martinによって翻訳、同文館から発刊）

；清は東南アジアの交易圏の知識と西洋から直接輸入された知識を組み合わせ、明治維新以前まで、西洋近代をめぐる東アジアの知識・情報の交流の中心になる。朝鮮半島においても主な情報源。

Ⅲ. 東アジア概念史の基礎

『万国公法』（1864）



Ⅲ. 東アジア概念史の基礎

②日本の役割：1876年以降に、西洋の理解のモデルとして日本が浮上。日本の翻訳書や著述が中国や韓国へ

；日本の特徴は、民間－教育、言論、宗教－の活発な活動が政府の動きに加わっていたこと。朱子学や華夷秩序への忠誠が薄い青年層にアピールする傾向

Ⅲ. 東アジア概念史の基礎

i) 中国の場合

日本近代の紹介者としての梁啓超（1898年の亡命から）：『清議報』・『新民叢報』（日本で発刊。ただし、中国本土はもちろん、朝鮮半島においても影響力）



戊戌変法期の梁啓超



亡命後の梁啓超（1901）

Ⅲ. 東アジア概念史の基礎

教育による日本的近代政治思想の導入

背景：科挙制の廃止（1905）←文明の基準の変化が知と権力の組み合わせにまで波及。

「知識＝西洋近代」の図式が一気に定着。知・権力を追求する青年は、西洋近代へ流れる。ただし、西洋近代への熱望を支える知的・学問的準備が中国国内において整っていない

→代案；留学・外国の教師の招聘。

留学：留学先は多様（日本・フランス・アメリカ等）。但し、日本への留学生の数が圧倒的；1902年には500人、1903年には、1000人、1905年には8000人、1906年には10000人と推定）法政大学速成科・早稲田大学清国留学生部。

教習：日本から派遣された学者と日本の教育機関の卒業生による共同作業。

効果：法政の近代化におけるモデルとして機能一例；中華民国臨時憲法の基礎委員5名中、4名が日本留学生。

Ⅲ. 東アジア概念史の基礎

ii) 朝鮮の場合

甲午の改革（1894年7月－1896年2月）と日本モデル：日本の政治システムがモデルとして設定一例；国王の専制君主的権限を制約するため、日本の宮内府制度を導入し、宮中の機構を再編。

大韓帝国における日本モデル；「大韓帝国制」（1899）に見える政治思想の錯綜。

民国思想（18世紀問題へ対応する朝鮮朱子学の変容）＋万国公法（清によって理解された西洋）＋帝国・臣民（モデルとして明治日本）

→政治思想においてはもちろん、近代政治への実際の変容においても、日本がモデルとして位置づけられた。

Ⅲ. 東アジア概念史の基礎

iii) 近代の概念連鎖の結果

Sovereignty: 主權

主權 shuken (日)

主权 zhuquan (中)

주권 jugwon (韓)

; 『万国公法』(1864)の翻訳から

International law: 國際法

國際法 gokusaiho (日)

国际法 guojifa (中)

국제법 gukjebeob (韓)

; 箕作 麟祥『國際法 一名万国公法』弘文堂、1873年の翻訳から

Ⅲ. 東アジア概念史の基礎

3) 当代の東アジア

各々の翻訳

Governance: ガバナンス(日)、治理(中)、거버넌스(韓)

Cellular phone: 携帯電話(日)、手机(中)、핸드폰(韓)

Ⅲ. 東アジア概念史の基礎

2. 近世から近代への概念の変容

1) 翻訳とは何か。

翻訳学：英語のtranslation studiesは、1978年にルフェーブル（A. Lefevere）が初めて使った言葉。

「翻訳とは、第一に意味において、第二に文体において、原語のメッセージを訳語で、もっとも近くて、自然な等価として再生産することである」（E. A. Nida & C.R. Taber, The theory and Practice of Translation, Leiden, Brill, 1969, p.12）。

Ⅲ. 東アジア概念史の基礎

2) 文明を横断する翻訳

直訳 (literal translation) と意訳 (free translation) : 二つの翻訳の中で、一つを選択しうる場合と、意訳しか選択肢がない場合がある。

← 後者は、メタ言語レベルの差が大きい場合。例：18世紀末におけるフランス語のドイツ語への翻訳とフランス語の中国語への翻訳。

3) 等価性 (equivalence) と文明 (civilization) :

文明の差によって、概念の背後にある関連性の構造が異なる場合には、等価性の獲得は至難

→ 翻訳のダイナミズムが明確に現れる。

IV. 評価、その他

1. 評価

期末試験による。持ち込み不可。短答と論述問題。

2. 教員との連絡

研究室：法学部430号

電話：052) 789-2323

メール：dkkang@law.nagoya-u.ac.jp